

夢かなってク 通信

～ かなテク西部に入校し、自分の夢をかなえた方のメッセージです ～

「行動すること」が、自分を変える

ビルメンテナンスコース S・Kさん (29歳 男性)

「行動する」ことで、就職氷河期からの空白期間を乗り越え、自分を変えて、「就職」という夢をかなえました。

私が大学時代に就職活動した時期は、**就職氷河期**と呼ばれていました。リーマンショックの影響により企業は新卒者の採用を渋り、一流大学の学生ですら、就職が困難な状況でした。私自身も採用試験を受けては落ち、また受けては落ちの繰り返しでした。不採用の結果を受けるときに自信をなくし、就職する熱意を失い、**就職先が決まらな**いまま大学を卒業しました。

厳しい現実を突きつけられた私は気分が塞ぎがちになり、何をすることも意欲が湧かず、ただただ家で**無駄な時間**を過ごしていました。朝遅く起きては、一日中インターネットをして、夜遅くに寝るという自堕落な生活を日々送り、**現実から目を背け逃げる**ことを選んでしまったのです。

しかし、こんな状況でも、物欲はなくなるらないもので、欲しいものを買うためにどうやってお金を稼ごうかと考えていました。外で働く気持ちが湧かなかった私は、もともと機械いじりが好きなこともあり、ネットオークション販売を始めました。

しかし、この判断がさらに自分を追い込む形になってしまいました。決して多いとは言えない収入でしたが、必要なお金を得られるようになったことで安心してしまい、これが**就職に対する意欲をさらに鈍らせ、空白期間を長引かせる結果**となりました。親に「就職はどうするのか」と聞かれても、「必要なお金は稼いでいる」と言い、**無気力な生活から抜け出せませんでした。**

そんな日々を長く続けていましたが、**将来に対する不安は常に感じており、気が休まることはありません。**その不安は歳を重ねるごとに強くなっていき、**次第に危機感**が込み上げてくるようになりました。

そんなある日、親から「景気が上向いて求人の状況が良くなっている。**就職するなら今だぞ。**」と言われ、この一言が私にとっての**転機**となりました。今までは不景気を理由に就職活動をしていても無駄だと思っていましたが、ニュースなどで好景気の情報を見ているうちに「**今なら就職できるかもしれない。**」と思うようになり、親の後押しもあって、ここで**一歩前に進もう、「行動しよう」と、ようやく無気力な生活から抜け出す決意**をすることができました。

まず、私は、ハローワークに相談し、職員と会話をする中で、「**訓練校に通ってみたらどうか**」と勧められ、そこで初めて**西部総合職**

業技術校の存在を知りました。

すぐに、オープンキャンパスと体験入校に参加することにしました。機械いじりが好きだった私は、ビルメンテナンスコースを見学し、生き生きとして学ぶ人達を見て、コースの授業内容や、訓練を修了したあとに就職先で従事する職務内容などを聞き、この業界では是非働きたいと思い、入校を決意しました。

西部校に入校して初めての頃は、授業に追いついていくのでやっとの状態で、初めて触れる専門知識や、大学以来の集団生活に戸惑い、途中体調を崩すこともありました。

しかし、新しいことを学べること、仲間と協力しながら作業することに楽しさや嬉しさを感じている自分がいました。そして、一ヶ月ほど経った頃には、西部校の生活にも慣れ、クラスにも馴染むことができ、この生活を楽しむ余裕を持てるようになりました。

また、同時に意欲も徐々に湧き、課題や資格取得のため、家で自主勉強したり、企業説明や職場現場見学などに積極的に参加することで、自分がどういう職場で働きたいのかを真剣に考えるようになりました。前に進むことができた私は、少しずつ変わりはじめていました。

そんな私が一番不安を感じていたのは就職活動です。面接する上で、空白期間について、どう説明すれば良いのか分かりません。これは以前からの悩みで、なかなか就職活動に踏み切れなかった原因です。自分にとってマイナスなことばかりだったので、良い説明が浮かばず、考える時間ばかりが過ぎていきました。

そんな中、先生との個人面談で空白期間について相談したとき、どのようなことをしてきたのか聞かれ、素直に答えると、「こんな感じで説明すればいいんじゃないか」と、全く別の視点から答えの例を挙げてくれました。私には思いつかないような内容で衝撃的でした。マイナスの要素でも、言い方を変えるだけで、プラス要素に転じることが出来ると知り、先生の挙げてくれた例を参考にしながら、自分なりに書いては、先生に添削してもらい、空白期間の説明を詰めてきました。

こうして一番の不安要素であった空白期間の対策ができた頃は、今まで恥じていた自分の過去にも向き合えるようになり、これも自分の人生の一部なのだと受け入れることができました。自信を持った私は、経歴的に無理だと思われていた企業に、先生の後押しもあって応募し、面接試験も通過して、無事、内定をいただくことができました。

西部校で学んだ時間は、私にとって大きなものとなりました。立ち止まらずに前に進んだことで、自分を大きく変えることができました。そして「行動する」ことの大切さを知りました。これから仕事でも思い悩む場面が出てくるとは思いますが、あまり深く考えずに、まず行動することを今後の指針にしていきたいと思っています。

そして、行動すれば現状をかえることが出来ることを、思い悩んで立ち止まっている人に伝えたいと思います。

最後に、未熟な私を育ててくれた学校関係者の皆様、そして、私を受け入れてくださった企業の方々に感謝します。